

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 208人	社会 208人	数学 207人
	理科 208人	英語 206人	

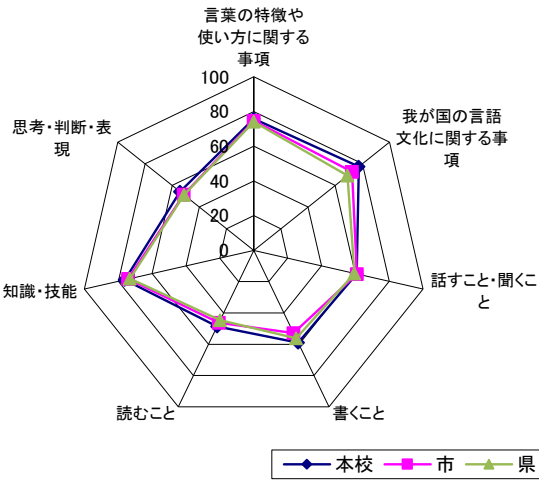
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.8	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	77.4	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	60.8	60.9	59.5
	書くこと	59.0	52.8	56.2
	読むこと	48.6	46.2	44.5
観点	知識・技能	76.1	74.2	73.1
	思考・判断・表現	54.2	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

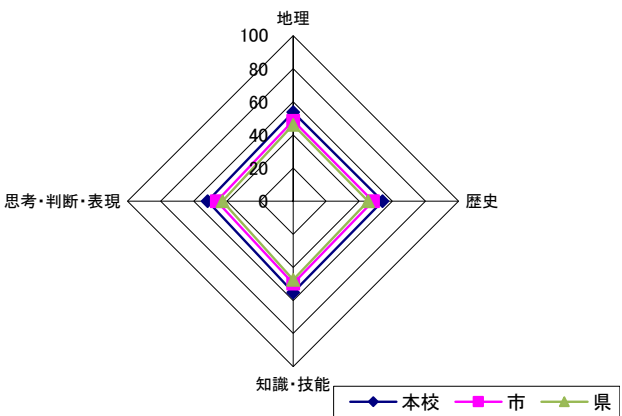
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○正答率は、市の平均を1.1ポイント、県の平均を1.7ポイント上回っている。 ○「文節の関係が同じ文を選ぶ」問題では、市の平均を5.5ポイント上回る86.1ポイントであった。 ●「漢字を正しく書く(層・幼い)」問題では、市や県の平均を上回っているが、「漢字を正しく書く(縮尺)」問題では、市の平均を9.4ポイント下回っている。	・「漢字を正しく読む」「漢字を正しく書く」それぞれで1つずつ市平均、県平均を下回っている設問がある。1学年下の配当漢字の読み書きの復習を含め、学年配当の漢字を継続的に練習し、確認テストを行う。日頃から漢字の点画を意識させ、丁寧かつ正確に書かせる指導で定着を図っていききたい。 ・文法が苦手な生徒は多い。3年間を見通した文法学習を行い、繰り返し問題を解かせることにより苦手意識をなくしていききたい。
我が国の言語文化に関する事項	○正答率は、市の平均を4.9ポイント、県の平均を8.3ポイント上回っている。 ○「歴史的仮名遣い(ゆゑに・つひに)を現代仮名遣いに直して書く」問題では、市の平均を9.3ポイント上回っている。 ○「三つの漢字に共通する行書の点画の変化として適するものを選ぶ」問題でも、市の平均を0.6ポイント上回っている。	・今後も歴史的仮名遣いを正しく読めるようにすることで、古文・漢文の持つ独特のリズムに気付かせ、作品の特徴を生かして朗読させる。暗唱・音読指導を通して古典の世界に親しませる指導を継続して行っていききたい。 ・書写に関して、漢字の行書における点画の変化を継続して理解させていききたい。
話すこと・聞くこと	○正答率は、県の平均を1.3ポイント上回っているが、市の平均を0.1ポイント下回っている。 ○「条件に従って話し合いの結論を書く」問題では、市の平均を4.4ポイント上回っている。 ●「司会者の話し合いの進め方の工夫として適するものを選ぶ」問題では、市の平均を3.9ポイント下回っている。	・聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨や話し合いの工夫などを正確に聞き取る力をつけさせる。また、聞きながら適切にメモを取る練習を継続的に行っていききたい。 ・授業で話し合い活動を積極的に取り入れ、相手の伝えたいことを正しく聞き取った上で自分の意見を分かりやすく述べられるようにする。相手を意識して「話す」「聞く」ことにより、話し合いのスキルの向上を目指したい。
書くこと	○正答率は、市の平均を6.2ポイント、県の平均を2.8ポイント上回っている。全ての問題で県と市の平均正答率を上回っている。 ○「資料から読み取ったことをふまえて自分の考えを根拠を明確にして書く」問題では、市の平均を8.7ポイント上回っている。	・資料を読み解き、自分の考えを具体的に書くことに苦手意識を持つ生徒は少なくない。小作文を書かせる活動を取り入れて、内容をまとめ、自分の意見や考えを書く習慣を身に付けさせたい。 ・型となる文章構成や表現方法を学ばせ、自分の文章表現に役立てる指導、目的意識・相手意識の両方を意識した作文が書ける指導を継続して行いたい。
読むこと	○正答率は、市の平均を2.4ポイント、県の平均を4.1ポイント上回っており、1問を除く全ての問題で県と市の平均を上回っている。 ○「場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する」問題では、市の平均を6.3ポイント上回っている。 ●「場面の展開や登場人物の心情の変化について描写を基に捉える」問題では、市の平均を1.9ポイント下回っている。	・教材文以外の、特に漢語の多い説明的文章の読解を苦手とする生徒が多い。朝の読書や司書によるブックトーク等を通じて、今後も多彩で質の高い文学作品に触れさせる機会を設け、言語感覚を磨かせたい。 ・筆者の主張とそれを支える根拠(論証)を意識して説明的文章を読むことや、登場人物の言動の意味や変化を考えて文学的文章を読むことができるような指導を継続して行っていききたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	53.7	48.6	46.2
	歴史	54.1	48.3	45.3
観点	知識・技能	55.1	49.8	47.5
	思考・判断・表現	51.6	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

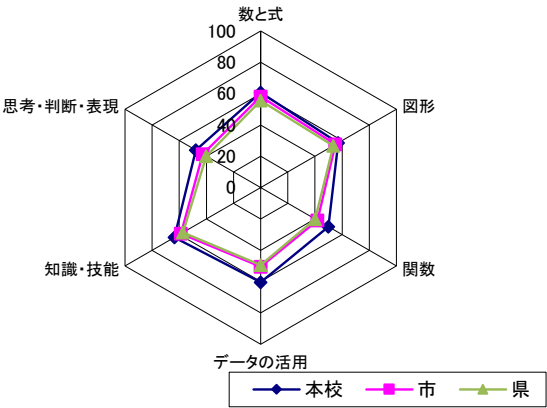
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○正答率は、市の平均を5.1ポイント、県の平均を7.5ポイント上回っている。 ○全ての問題で県の平均正答率を上回っており、市の平均正答率を下回っているものは1問だけであった。 ○特に、「高山気候の雨温図と農業についての説明文の組み合わせとして正しいものを選ぶ」問題では、市の平均を10.7ポイント、県の平均を14.5ポイントと大きく上回っている。また、「資料から読み取れることをまとめたメモの3つの空欄に当てはまる語句の組み合わせとして正しいものを選ぶ」問題でも、市の平均を10.1ポイント、県の平均を12.6ポイントと大きく上回っている。 ●「中国の経済発展についてまとめた文章に関わりのあるグラフとして適切なものを2つ選ぶ」問題では、県の平均より0.1ポイント高く、市の平均を1.7ポイント下回っている。 ●「資料で述べられている地域の特徴をもつ2つの都市の位置として正しいものを選ぶ」問題では、市や県の平均とほとんど変わらず、正答率が28.9%であった。 ●「複数の資料から読み取れる内容を基に、リビアの経済が抱える課題を考えて記述する」問題や「原稿の内容を基にブラジルのバイオエタノール生産の課題を考えて記述する」問題では、正答率はともに市や県の平均を上回ってはいるものの、無解答率が22.6%、20.2%となった。	・授業の中で地図やグラフ、地域の特徴を表す写真などの資料の積極的な活用を継続していきたい。 ・資料を読み取る力は少しずつ身に付いてきており、資料から分かることを選択する問題の正答率は市や県の平均を大きく上回っているものもあった。しかし、文章で述べられている内容と関わりのあるものを選択する問題の正答率が低く、資料から読み取ったことを基に考えて記述する問題での無解答率も高いことから、資料から読み取ったことを言語化して表現する時間を十分に確保していきたい。また、初めにキーワードを提示するなどして言語化することが苦手な生徒も取り組めるような支援を行ってきたい。 ・地図や模式図から都市の位置を選択する問題の正答率が低かったため、地図から地形と気候、生活との関わりを読み取らせたり、略地図や模式図、地形図などさまざまな種類の地図に触れる機会を設けていきたい。 ・赤道や本初子午線、方位など地図を読む上で重要な基礎的な知識について繰り返し復習し、地図の見方の理解を図りたい。
歴史	○正答率は、市の平均を5.8ポイント、県の平均を8.8ポイント上回っていた。 ○ほとんどの問題で市や県の平均正答率を上回っており、下回っているのは2問であった。 ○特に、「複数の資料から読み取れる内容を基に、偽籍が行われた理由を考えて記述する」問題では、市の平均を14.1ポイント、県の平均を22.7ポイントと大きく上回っている。また、「縄文時代の出土品とその説明文の組み合わせとして正しいものを選ぶ」問題でも、市の平均を13.3ポイント、県の平均を15.0ポイント上回っている。 ●「室町時代の社会についてまとめたメモの2つの空欄に当てはまる語句の組み合わせとして正しいものを選ぶ」問題では、市の平均を2.7ポイント、県の平均を3.5ポイント下回っている。 ●「平安時代から鎌倉時代初期の武士に関するできごとについて述べた文を古い順に並べ替える」問題では、県の平均を0.7ポイント、市の平均を2.5ポイント下回っている。 ●複数の資料から「承久の乱による鎌倉幕府の支配の変化の内容を考えて記述する」問題では、市や県の平均をやや上回っているが、無解答率が36.1%であった。	・歴史的に大きな出来事に関しては、その背景や理由を考慮して記述する問題でも正答率が比較的高かった。今後も小テストを実施したり、ワークを繰り返し取り組ませたりするなど基本的な知識・理解を深められるようにしていきたい。 ・一方で、古い順に並び替えたり、社会の様子や変化について答えたりする問題での正答率の低さや無解答率の高さが見られたことから、歴史的な事象がどんな影響を与え、社会がどう変化してくかを生徒自身が考えて表現し、話し合う時間を取り入れていきたい。1つの歴史的な事象が次の事象につながっていくことを実感できるようにすることで歴史的な事象を単体として捉えるのではなく、時代ごとの大きなまとまりとして捉えられるようにしたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	60.7	58.2	55.5
	図形	57.1	55.1	53.5
	関数	49.8	41.9	40.2
	データの活用	60.4	50.5	49.4
観点	知識・技能	63.6	58.8	57.3
	思考・判断・表現	47.7	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

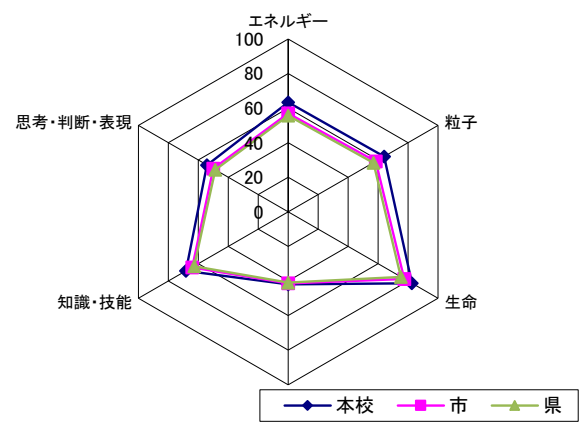
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は、市の平均を2.5ポイント、県の平均を5.2ポイント上回っている。特に「[図]で示した考え方を[式]に正しく表せていない人を1人選び、正しい式をかく」問題では、市の平均を10ポイント、県の平均を14.7ポイント上回っている。 ●「与えられた正の数と負の数から、金曜日の貸出し冊数を求める」問題では、市の平均を7.6ポイント、県の平均を5.4ポイント下回っている。	・「与えられた正の数と負の数から、金曜日の貸出し冊数を求める」問題の正答率が低い。答えを求めさせるだけでなく、どのような計算の工夫をしたか計算過程を説明する活動を設ける。その際、数学的な表現で書くことができるように指導していきたい。
図形	○正答率は、市の平均を2.0ポイント、県の平均を3.6ポイント上回っている。特に、「立方体から三角柱を取り除いた立体のねじれの位置関係について、正しいものを選ぶ」問題では、市の平均を4.5ポイント、県の平均を2.6ポイントを上回っている。 ●「垂線の性質を理解し、作図する」問題では、正答率はともに市の平均を3.2ポイント、県の平均を4.6ポイント上回っているが、無解答率は10.6%である。	・作図に苦手意識をもつ生徒は少なくない。作図の仕方だけでなく、その性質を理解できるように、繰り返し問題演習を行い、考え方を定着させる。
関数	○正答率は、市の平均を7.9ポイント、県の平均を9.6ポイント上回っている。特に、「与えられたグラフをもとに、正しいものを選ぶ」問題では、市の平均を14.2ポイント、県の平均を15.1ポイント上回っている。 ●「与えられた表をもとに、比例のグラフをかく」問題では、県の平均を0.7ポイント上回っているが、市の平均を0.9ポイント下回っている。	・比例定数を求める問題の正答率が低い。表、式、グラフのどこに比例定数が表れるのかを整理し、様々な解法で求めることができるよう指導していく。
データの活用	○正答率は、市の平均を9.9ポイント、県の平均を11.0ポイント上回っている。特に、「ある階級までの累積度数が大きいヒストグラムを選び、その累積度数を求める問題」では、市の平均を15.9ポイント、県の平均を16.8ポイント上回っている。 ●「データの傾向について、相対度数を使って説明する」問題では、正答率は市の平均を10.7ポイント、県の平均を12.2ポイント上回っているが、無解答率は33.8%である。	・データの傾向を説明することを苦手とする生徒が多い。データのどこに着目するのか、用語を用いてどのように記述するとよいか、根拠を明らかにして説明できるよう指導していく。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	63.4	57.0	55.7
	粒子	64.0	58.6	56.9
	生命	82.6	77.5	75.2
	地球	41.9	41.4	40.9
観点	知識・技能	68.3	64.1	62.8
	思考・判断・表現	54.2	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

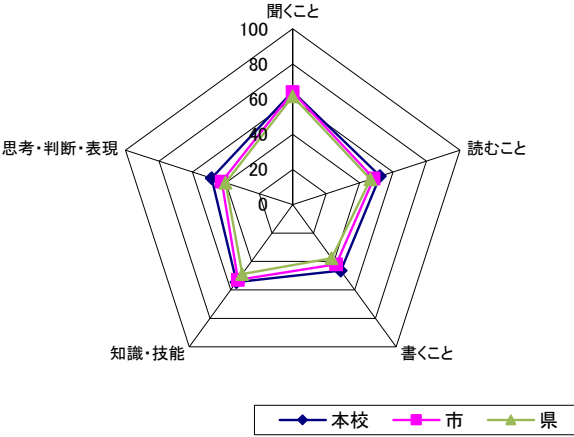
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○正答率は、市の平均を6.4ポイント、県の平均を7.7ポイント上回っている。 ○「鏡に映った像が見える点を選ぶ」問題では、市の平均を14.3ポイント、県の平均を15.2ポイント上回っている。 ●「音の速さを使って音源までの距離を求める」問題では無解答率が14.9%と高かった。	・力の大きさとばねの伸びの関係のグラフや、光の反射の道すじなど、グラフや作図を用いた問題にも対応できているので、今後も継続して指導していきたい。 ・「音の速さを使って音源までの距離を求める」問題に対して、立式して計算に取り組むことができるよう、授業で類似問題の演習を行いたい。
粒子	○正答率は、市の平均を5.4ポイント、県の平均を7.1ポイント上回っている。 ○「酸素を発生させる方法を選ぶ」問題では、市の平均を9.5ポイント、県の平均を14.8ポイント上回っている。 ●「混ぜられている2種類の物質の組み合わせを選ぶ」問題では、市の平均を7.1ポイント、県の平均を7.6ポイント下回っている。 ●「水溶液の温度を下げて結晶がほとんど現れない理由を答える」問題では、無解答率が23.1%と高かった。	・「混ぜられている2種類の物質の組み合わせを選ぶ」問題に対して、生徒が課題から実験方法を考えたり、実験結果から考察力を高められるような授業を行いたい。 ・記述問題に対しての無回答率が高かったので、生徒が授業中に自分の言葉で説明する活動を積極的に取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
生命	○正答率は、市の平均よりも5.1ポイント、県の平均よりも7.4ポイント上回っている。 ○「葉脈の名称を答える」問題では、市の平均を9.4ポイント、県の平均を12.9ポイント上回っている。 ●「ライオンとシマウマの犬歯を選び、ライオンの犬歯が獲物をとらえることに適していることを答える」問題では、市や県の正答率を上回っているが、他の問題を比べると正答率が52.9%と低かった。	・基本的な知識や重要語句の意味に関しては定着していると思われるので今後も今までの指導を継続して行っていく。 ・生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために、授業中に自分の言葉で説明する活動などの機会を増やしていきたい。
地球	○正答率は、市の平均を0.5ポイント、県の平均を1.0ポイント上回っている。 ●「ゆれの名称と震度の階級の組み合わせを選ぶ」問題では、市の平均を13.4ポイント、県の平均を12.9ポイント下回っている。 ●「柱状図を選ぶ」問題では、市の平均と県の平均をどちらも5.1ポイント下回っている。	・地学分野の平均正答率が低いため、知識の定着を図るために、重要語句の確認を行う。また、重要語句を説明できるような活動も行いたい。 ・「柱状図を選ぶ」問題に対して、授業中に実際の露頭の写真やモデルを提示するなどして、生徒が地層の広がりを文章や図からイメージし、科学的根拠をもとに説明できるような指導を行っていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	64.3	64.0	61.6
	読むこと	52.2	48.4	46.6
	書くこと	46.5	42.0	37.8
観点	知識・技能	54.5	52.9	48.9
	思考・判断・表現	48.5	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は、市の平均より0.3ポイント、県の平均より2.7ポイント上回っている。 ○「対話の内容を聞き取り、適切に回答しているものを選ぶ。(あなたとお姉さんは一緒にバスケットボールをするかとたずねられて)」問題では、市の平均より8.6ポイント、県の平均より10ポイント上回っている。 ●「絵を適切に表している英文を選ぶ」問題では、市の平均より8.6ポイント、県の平均より3ポイント下回っている。	・単語や文章を読むときに発音記号や強く読む場所を意識し、ローマ字読みにならないように指導していく。 ・英語でのやりとりを中心とした授業展開を心がけ、授業の中で英語を聞くこと、話すことができる機会を多く設ける。 ・ALTやリスニングテストを活用し、英語を聞き取る力、話す力を身に付けさせる。
読むこと	○正答率は、4つすべての問題で市と県の平均を上回っている。 ○特に「対話から必要な情報を読み取り、適切な日付を選ぶ」問題では、市の平均より6.9ポイント、県の平均より9.9ポイント上回っている。 ●「英文から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ」問題では、他の問題の本校の正答率の平均と比べて低かった。	・文法が苦手な生徒には、ICT教材を活用し、理解ができるよう指導する。 ・さまざまな英文の語形や語法の知識を定着できるように、単元末テストや定期テストなどで繰り返し出題していく。 ・授業内では初見の教科書の長文を読み、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。また、帯活動として単語学習を行い、単元ごとに単語テストを実施することで語彙力の定着を図る。
書くこと	○正答率は、市の平均より4.5ポイント、県の平均より8.7ポイント上回っている。 ○「日常的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるかどうかみる。」3つ問題で市や県の平均正答率を9.9～14.6ポイント上回っている。 ●「英文を正しい語順で書く(現在進行形の文)」問題では、市の平均を1.8ポイント下回っている。	・単語・連語や教科書の基本表現を繰り返し書かせ、暗記する練習を行う。さらに確認テストを充実させる。 ・生徒の書いた英文を教師とALTで添削を行い、正しい英文を書くことができるように指導していく。 ・この英文がどのような場面で使われるものなのか、目的・場面・状況を意識した英文を書く演習を積極的に取り入れ、正しい表現を書く力を身に付けさせる。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」では、肯定的回答が市の平均を8.6ポイント上回っている。「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」では、肯定的回答が市の平均を10ポイント上回っている。日頃から担任からの指導により家庭学習の習慣化が見られる。

○「勉強していて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。」では7.4ポイント、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」では5.9ポイント、肯定的回答が市の平均を上回っている。「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」では、肯定的回答が市と比べて6.7ポイント上回っている。自ら問題解決をしようとしていることがうかがえる。

○「家の人と学校のでできごとについて話をしている。」では、肯定的回答が市の平均を4.5ポイント、県の平均を5.4ポイント上回っている。「家の人と将来のことについて話すことがある。」では、肯定的回答が市の平均を1.2ポイント、県の平均を4.9ポイント上回っている。今後も、生徒たちの可能性を最大限に引き出せるよう、家庭と協力して指導に努めたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」では、肯定的回答が市の平均を11.7ポイント、県の平均を12.9ポイント下回っている。「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」では、肯定的回答が市や県の平均をわずかに下回っている。授業のねらいを明確化し、学習内容を理解させ定着できるように、学習の振り返りの時間を確保するよう努めたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」では肯定的回答が市の平均を3.9ポイント、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」では肯定的回答が市の平均を4.6ポイント下回っている。「自分の行動や発言に自信をもっている。」では、肯定的回答が市の平均を5.5ポイント下回っている。授業の中で生徒の様々な考え方を引き出せるような授業展開を工夫し、自分の考えを表現できる力をつけさせたい。

●「ふだん(月～金曜日)」、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。」で4時間以上と回答した生徒は、市の平均より0.7ポイント、県の平均より1.7ポイント上回っている。学校・学年だよりや保護者会等でゲームや携帯・スマートフォンの使用の仕方について、保護者への啓発活動を行い、家庭との協力を進めていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化 ・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化	・ねらいの提示と振り返りを行う。 ・チャイム前着席や態度の指導を行う。 ・課題の提出を徹底させる。	・学習内容の明確化を徹底する。 ・授業に集中して落ち着いて学習することができている。 ・家庭学習の習慣は、定着しつつある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・コミュニケーション能力を高める学習指導の充実とICT活用	・「主体的・対話的で深い学び」の推進	・話し合い活動の中で、自分の考えをまとめ、級友に説明する機会を多く設定し、ICTを活用しながら進めていく。